

の効果的な活用を工夫したり、高まりを実感できる終末の活動（アウトプット）を工夫したりした。このような授業づくりを、中学校と連携しながら相互の授業参観、研究会への参加等を行う中で進めてきた。

② 小中連携による特別活動づくり

仲間部会が中心となり、地域の方々と触れ合う中で「人権教育における三つの力」を培うことをめざした。具体的には、小中合同運動会における、地域に伝わる盆踊りを導入したことである。この盆踊りを、地域の方々の三味線演奏と子ども達の唄いによって行った。踊りの講習会も地域の方々が講師となって進めた。さらに、「思いを伝え、人と人とのつながりを広げよう」のテーマの下、小学校5・6年生と中学生、さらに地域の方々による児童生徒集会を行った。ここでは、「あいさつ」について子どもの姿、地域の姿、あいさつの大切さについて話し合わせ、誰もが気持ちよく生活できる清見町にしていくために、個人が、自ら、誰に対してもあいさつしていくことが大切であるという思いを共有することができた。

③ 地域連携による人権教育の推進

「地域ができることを、地域の知恵と力で」というのが、地域部会のキャッチフレーズである。メンバーは、地域の主だった人を中心として、まち協、PTA、学校職員である。活動の柱は二つ。人権教育の土台をなす「命を守る活動」、地域を巻き込んだ「人権啓発活動」。人権教育は、学校だけで完成できるものではないからである。具体的には、「きよみっ子安全サポーター」（ボランティアによる見守り活動）の立ち上げ、子供会による「危険箇所マップ」の活用、通学時における保護者の「あいさつ+一言運動」人権講演会の開催、PTA総会での講話、人権だよりの発行である。



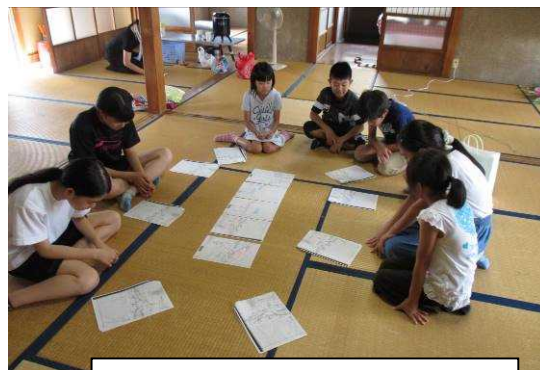
① の写真（授業づくり）



② の写真（運動会での盆踊り）



③ の写真（あいさつ運動）



③ の写真（危険箇所マップの活用）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

人権教育の手引き (平成24年度岐阜県教育委員会)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「人権教育における三つの力」認識力・自己啓発力・行動力を身に付けるために、教科や道徳の中で、人権教育の視点としての「具体や意図」「場と手立て」を位置付けている。

特別活動の中では、主に「自己啓発力」の高まりをめざし、地域とのつながりを軸とした活動を、学校行事や児童会活動の中に位置付けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

人権教育推進委員会では、三つの部会を組織している。

「学習部会」 小中の連携を通して、真に強い子を育てる授業づくり

「仲間部会」 保小中の連携を通して、真に強い子を育てる仲間づくり

「地域部会」 真に強い子を育むために、地域ができることを地域の知恵と、地域の力で

それぞれの部会には、保育園、小学校、中学校、PTA、まち協などのメンバーが入って構成されている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内研究推進委員会での学校評価（内部）

学校評議員会（人権教育推進委員会）での意見交流（外部）

○成果：授業での学び合いの活性化によって、自他の良さを認め合う場面が多くみられた。

●課題：地域の方々の考えや思いを聴く機会を設けたり、地域に向かって発信したりする活動を仕組んでいきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・「公表会」の開催 (授業公開・集会活動の公開・資料提案・プレゼン)
- ・地域部会による「人権だより」の発行
- ・学校だよりでの活動紹介

多くの他校教職員に授業や集会などの様子を見てもらい、本校の取り組みを知ってもらい、多くの好評を得ることができた。また、広報活動により、地域とともに人権に取り組んでいる学校の様子を地域住民に知ってもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

人権教育推進委員会の会長は、清見町まちづくり協議会の会長であり、他に、まちづくり協議会の事務局長、社教委員長、安全委員長などがメンバーとなっている。このように、清見町まちづくり協議会を中心として、地域の主だった方々との協働で進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「地域部会」の立ち上げと人選により、主体的、多面的に活動する外部支援団体としての存在がクローズアップされた一年であった。前述してきた地域部会の活動は、学校職員は顧問的な立場で参考意見を述べるのみ。実際の活動は地域部会に属するメンバーが率先して行った。まさに「地域ができることを、地域の知恵と、地域の力で」という姿であった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

5月下旬 第1回人権特別授業（講師：花柳琴臣氏）
6月上旬 第1回人権教育推進委員会
6月中旬 清見町人権宣言策定委員会
6月中旬 清見小学校・清見中学校による相互授業参観・研究会参加
8月下旬 第2回人権特別授業（講師：花柳琴臣氏）
9月上旬 小中合同運動会開催
10月中旬 第2回人権教育推進委員会
授業公開・児童生徒集会公開
10月下旬 清見町人権宣言策定・公表
11月下旬 清見小学校・清見中学校 人権公表会
11月下旬 第3回人権特別授業（講師：花柳琴臣氏）
2月下旬 第3回人権教育推進委員会